

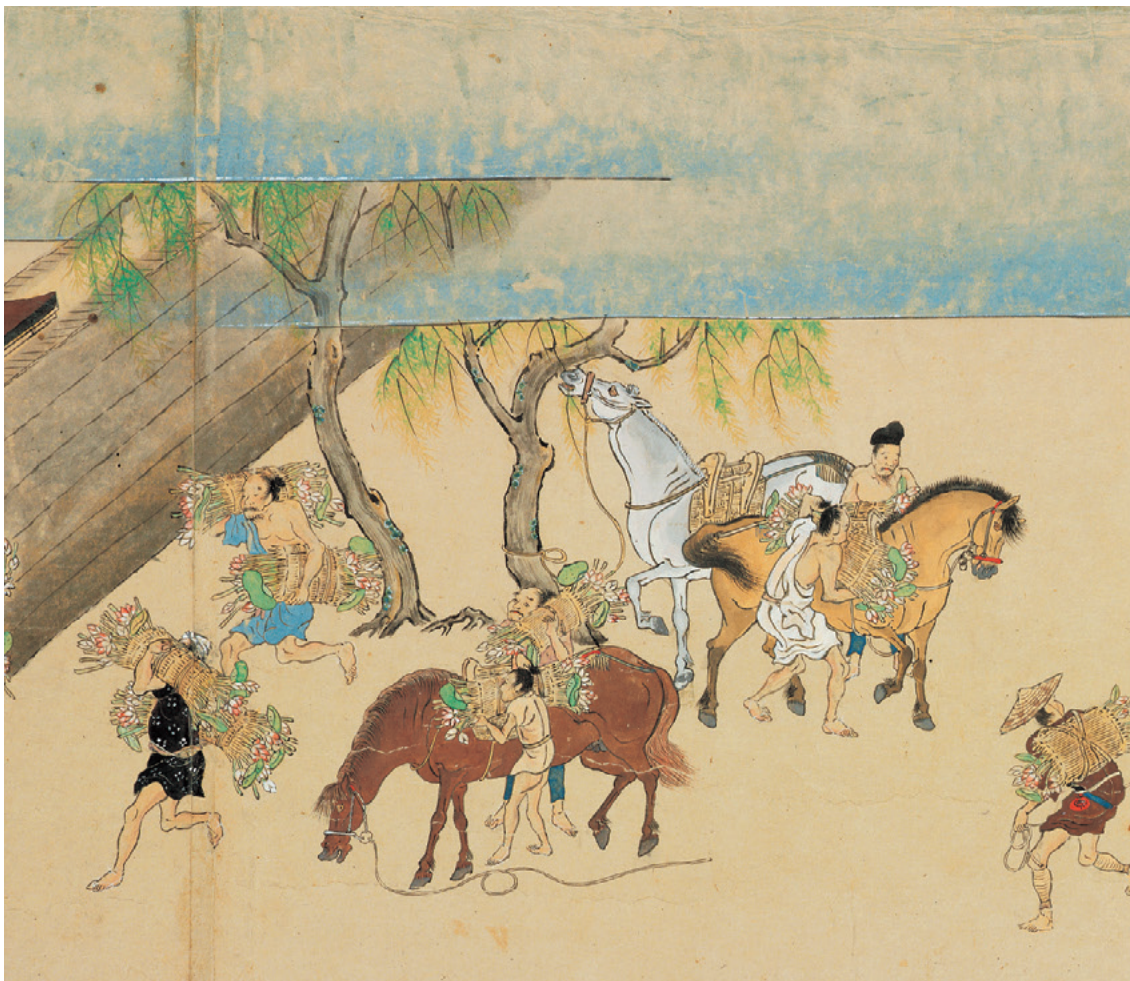
Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第 122 号

令和4年 7・8・9月



重要文化財 當麻寺縁起 下巻 部分 (奈良・當麻寺)

貞享本當麻曼荼羅修理完成記念特別展

中将姫と當麻曼荼羅

— 祈りが紡ぐ物語 —

7月16日(土)～8月28日(日) 西新館

わくわくびじゅつギャラリー

はっけん!ほとけさまのかたち

7月16日(土)～8月28日(日) 東新館

名品展

珠玉の仏たち

通年
なら仏像館

中国古代青銅器

通年
青銅器館

中将姫と當麻曼荼羅

—祈りが紡ぐ物語—

7月16日(土)～8月28日(日)

奈良・當麻寺の本尊である綴織當麻曼荼羅(国宝、當麻寺蔵)は、およそ一二六〇年前に現れた奇跡の曼荼羅として尊ばれてきました。そして極楽浄土の様子を表す曼荼羅の成立に、極楽往生を望んだ奈良時代の貴族の娘である中将姫が関わったという伝承は、鎌倉時代から現在にいたるまで広く知られています。

本展は、最も詳細に綴織當麻曼荼羅の図様を伝え、鮮やかな色彩で描かれた貞享本當麻曼荼羅(當麻寺蔵)を中心に展示を構成しています。貞享本は江戸時代の延宝七年(一六七九)に描かれ、貞享三年(一六八六)に靈元天皇の宸筆(自筆)を得て完成しました。

貞享本の製作を當麻曼荼羅信仰史のひとつの画期と捉え、當麻曼荼羅信仰の歴史や、連動する中将姫信仰についてもくわしく紹介します。日本一の霊像として信仰され続けてきた當麻曼荼羅と、女人往生の主人公として長く愛されてきた中将姫が人々に尊ばれ、人々を救ってきた歴史に触れていただければ幸いです。



重要文化財 刺繡阿彌陀三尊来迎図(滋賀・宝蔵寺)

※7月16日～8月7日展示



重要文化財 當麻曼荼羅(貞享本) (奈良・當麻寺)



国宝 一遍聖絵 巻第八(神奈川・清浄光寺(遊行寺))

※7月16日～8月7日展示



中将姫像 (奈良・當麻寺中之坊)

はっけん！ほとけさまのかたち

7月16日(土)～8月28日(日)

ほとけさまには、「如来」「菩薩」「明王」「天」の4つのグループがあるといわれています。この展覧会では、ほとけさまのすがたを表した仏像を、そのグループ別に展示し、それぞれのかたちと見分け方をご紹介します。また、どうしてそうしたかたちをしているのか、そのヒミツを解き明かしたいと思います。

本展では、奈良国立博物館公式キャラクターの「ざんまいず」が、注目ポイントをしめしながら、皆様をナビゲートします。さらに、展覧会場では、仏像をスケッチしたり、仏像のレプリカに触れたり、子どもから大人まで体験的に楽しく学ぶことができます。ぜひ、それぞれの仏像をじっくり見て、仏像のかたちについて、いろいろ発見してください！



国宝 薬師如来立像 (奈良・元興寺)



重要文化財 多聞天立像 (当館)



阿弥陀如来立像(当館の復元模造レプリカ)



展覧会をナビゲートする
奈良国立博物館公式キャラクター
「ざんまいず」

仏像に衣を着せること

当館学芸部美術室長 岩井 共二

この夏に開催される「わくわくびじゅつギャラリー はつけん！ほとけさまのかたち」では「ほとけさまに服を着せよう！」という、裸の仏像のレプリカに服を着せるワークショップを開催する。レプリカ(図①)は、当館が所蔵する鎌倉時代に造られた阿弥陀如来立像(裸形) (図②)を型取りし、制作当初に近い雰囲気でも表面の色を再現した復元模造(レプリカ) 服を着せたりするもので、仏さまとして開眼供養をしない仏像形のフィギュアである。レプリカが着ける袈裟(赤色の衣)・覆肩衣(緑色の衣)・裙(水色の衣)という三種類の長方形の衣は、像の大きさに合わせて造られた特注品だ。レプリカや衣装が完成したところで、チラシ等を使うために、衣を着けた姿の撮影を行った。着付けは思いのほか難航した。レプリカの表面がなめらかなため、一枚布の衣がずり落ちてしまうのだ。しかも、この像(図①②)は、どういうわけか、一般的な来迎印の仏像が左手を少し曲げて前に出しているのところが左手が真っ直ぐ伸びている。このため鎌倉時代の来迎印の阿弥陀立像のように左手を衣の端からうまく出せない。ゴムや洗濯はさみを使って衣がずり落ちないようにして、左手首が見えるように衣を着せて撮影した。

出来上がった写真(図③)をみて「あれ、なんか違う?」と思い、特別展「快慶」(二〇一七年)の図録に掲載されたおなじポーズの仏像と見比べたところ、ある違いに気付いた。そこで、着付けをやりなおし、再度撮影してみた。それが図④の画像である。より鎌倉時代の仏像らしくなると自分では思っているが、何が違うかわかるだろうか。

③では、体を一周してかかる袈裟の角が、左膝の辺りにある。これに対し④では、わかりにくいかもしれないが、袈裟の角がその辺りに表れないようにしてある。③の着方が間違っているとは言えない。このような形の仏像も存在する。ただ、レプリカ像のオリジナルは鎌倉時代の仏像だ。この時代の仏像らしい形にするには、④の着方(手が真っ直ぐなため、同じようには

ならなかった)の方がより近いと思う。

仏像の造形美において、着衣のひだ「衣文」は重要な要素だ。その衣文を形作るのには、衣のまとい方だ。それを理解するには、衣の角が何処にくるかを把握するのが有効だ。そういう考え方のもと、筆者はこれまで仏像の着衣を観察してきたつもりだった。しかし、いざこのレプリカに衣をまといせようとしたところ、自分がそのことを理解できていなかったことに気付き、がく然とした。自分は仏像の着衣を漠然と見ていたのだ。

今回③、④の写真撮影で気付かされたことがもう一つある。これらの写真の着衣は、実際の仏像に近い形にしようと考え、これ手を入れて、ここまでの形になったものだ。仏像の衣文は、衣を着けたとき自然に表れる形ではなく、ある程度意図的に衣が配置されたときに出来るものというのだ。

仏像の着衣形式をめぐる問題は、思っていた以上に奥が深い。仏像レプリカへの着付けを通して、自らの理解の未熟さを思い知らされた。



図① 阿弥陀如来立像(裸形)の復元模造(レプリカ)



図② 阿弥陀如来立像(裸形)鎌倉時代 当館



図③ ①に袈裟・覆肩衣・裙を着せたもの



図④ ③と違う形に袈裟を着けたもの

出陳一覧

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

令和4年7月5日(火)～

彫刻

【第1室】

- 阿弥陀如来立像 個人
- 観音菩薩立像 文化庁
- 不動明王立像 正智院
- 天部形立像 法明寺
- 蔵王権現立像 当館
- 伽藍神立像 当館

【第2室】

- 阿閼如来坐像 西大寺
- 天部坐像 当館
- 文殊菩薩坐像 薬師寺
- 毘沙門天立像 如法寺
- 菩薩立像 金竜寺

【第3室】

- 阿弥陀三尊像 峰定寺
- 阿弥陀如来立像 善集院
- 阿弥陀如来立像 当館
- 阿弥陀三尊像 個人

【第4室】

- 薬師如来坐像 当館
- 釈迦如来立像(清凉寺式) 当館
- 十一面観音菩薩立像 海住山寺
- 諸尊仏龕 寂照寺
- 諸尊仏龕 個人

【第5室】

- 誕生釈迦仏立像 正眼寺
- 誕生釈迦仏立像 悟真寺
- 誕生釈迦仏立像 当館

○菩薩半伽像 神野寺



菩薩半伽像(神野寺)

○観音菩薩立像 法徳寺

○観音菩薩立像 興福院

○観音菩薩立像 法隆寺

○観音菩薩立像 観心寺

○観音菩薩立像 金剛寺

○観音菩薩立像 個人

○観音菩薩立像 新薬師寺

○観音菩薩立像 当館

○観音菩薩立像 個人

○観音菩薩立像 個人

○十一面観音菩薩立像 個人

○十一面観音菩薩立像 個人

○如来立像 光明寺

○如来立像 当館

○如来立像 当館

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○如来立像 個人

○光背(二月堂本尊所用) 東大寺

○観音菩薩立像 当館

○観音菩薩立像 文化庁

○観音菩薩立像 勝林寺

○十一面観音菩薩立像 元興寺

○十一面観音菩薩立像 園城寺

○十一面観音菩薩立像 地福寺

○十一面観音菩薩立像 勝林寺

○十一面観音菩薩立像 新薬師寺

○十一面観音菩薩立像 当館

○如来三尊像 当館

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

○如来三尊像 個人

十二神将立像(丑、巳、午、未、申、亥神) 当館

持国天立像・増長天立像 法徳寺

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

天部形立像 個人

名品展 中国古代青銅器 坂本コレクション 青銅器館



中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※●＝国宝、○＝重要文化財 ※展示品は都合により一部変更する場合があります。

【表紙解説】

当麻寺縁起 下巻

重要文化財 土佐光茂筆 紙本著色 縦三五・〇cm 長二一八〇・二cm 室町時代 享祿四年(一五三二) 奈良 当麻寺

三巻からなる当麻寺の縁起絵巻で、室町時代の宮廷絵師土佐光茂が描いた。この絵巻は、当麻寺の僧が発願し、知識人であった京都の貴族、三条西実隆のコーディネートによって作られた。実隆は室町時代の文亀本当麻曼荼羅(当麻寺蔵)の製作にも関わっている。

表紙の場面は、当麻曼荼羅を織るために大量の蓮が集められているところ。当麻曼荼羅は、蓮の茎のなかから出る繊維を紡いで糸にして作られたと伝わり、絵巻には続いてその作業の様子が描かれている。これは伝承と考えられているが、室町時代の当麻曼荼羅解説書である『当麻曼陀羅疏』には鎌倉時代に作られた当麻曼荼羅のうちのひとつは、蓮糸と絹糸を撚り合わせた糸で画絹を織ったという現実味を帯びた記述もあり、蓮糸による織物は意外に早く作られていた可能性もある。

北澤 菜月(当館学芸部主任研究員)

◆特別展「中將姫と当麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」にて7月16日～8月7日展示

「仏像のかたち」

「如来」「菩薩」「明王」「天部」をテーマに全4回の講座を実施します。(第1回「如来」、第2回「菩薩」は申込受付を終了しました。)

■7月16日(土)

第1回 如来「東アジア世界のブツの姿」

岩井 共二(当館学芸部美術室長)

[受付期間 6月6日(月) 10:00~6月20日(月) 17:00] ※受付終了

■7月23日(土)

第2回 菩薩「菩薩像のかたちと信仰—観音菩薩を中心に」

内藤 航(当館学芸部研究員)

[受付期間 6月13日(月) 10:00~6月27日(月) 17:00] ※受付終了

■7月30日(土)

第3回 明王「図像から彫像へ—不動明王像の魅力」

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

[受付期間 6月20日(月) 10:00~7月4日(月) 17:00]

■8月27日(土)

第4回 天部「天部のかたち—毘沙門天を中心に」

佐藤 有希子 氏(奈良女子大学文学部准教授)

[受付期間 7月18日(月) 10:00~8月1日(月) 17:00]

【時 間】 13:30~15:00(13:00開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回90名(事前申込制)。抽選による座席指定制です。

【申込方法】 当館ホームページより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※当選者には参加証をお送りいたします。当日必ずお持ちください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

☆YouTube 動画限定公開 【要申込】先着申込順・各500名

講座終了後、各回ごとに申込制で期間・視聴者数限定の無料動画公開を行います。お申込いただいた方には、動画視聴のURLが記載されたメールを送付します。詳細はウェブサイトをご確認ください。

【視聴受付開始日】 ※定員に達し次第受付を終了します。

[第1回 如来] 7月25日(月) 10:00~

[第2回 菩薩] 8月 1日(月) 10:00~

[第3回 明王] 8月 8日(月) 10:00~

[第4回 天部] 9月 5日(月) 10:00~

◆奈良国立博物館賛助会

令和4年7月1日現在、特別支援会員1団体、特別会員5団体、一般会員(団体)18団体、一般会員(個人)99名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、(株)南都銀行、小山(株)、オフィス・カワイ、(株)葉風泰夢、桃谷樓、小路谷写真(株)、校倉な会、結の会

〔個人会員(新規)〕

掛樋 美佐保様 令和4年3月ご入会

内藤 幹様 令和4年3月ご入会

鶴田 進一様 令和4年4月ご入会

本島 得二様 令和4年5月ご入会

和田 亨様 令和4年6月ご入会

滝口 富美子様 令和4年6月ご入会

◆キャンパスメンバーズ

特別展「中将姫と當麻曼荼羅」では、キャンパスメンバーズを対象に、学芸員による解説付き鑑賞会を実施します。

詳細は、当館ホームページまたは右記QRコードよりご確認ください。



令和4年7月1日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

追手門学院大学文学部・国際教養学部、大阪大谷大学、大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部・関西学院大阪インターナショナル、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部・教育学部、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学(以上、五十音順)

◆「奈良博プレミアムカード」

「国立博物館メンバーズパス」のご案内

当館の特別展及び国立博物館4館の平常展をお得にご観覧いただける「奈良博プレミアムカード」、国立博物館4館の平常展を無料で観覧できる「国立博物館メンバーズパス」を販売しております。WEBからも購入いただけます。

詳しい情報は下記QRコードからご確認ください。当館観覧券売場へお問い合わせください。



プレミアムカード



メンバーズパス

新型コロナウイルス感染症対策について

当館では引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大予防のための対策を行っています。ご来館に際しては、以下のとおり、ご協力をお願いいたします。

37.5℃以上の発熱や風邪の症状、だるさ・息苦しさなどがある方、過去2週間以内に発熱や風邪症状で受診や服薬などをされた方、新型コロナウイルス陽性とされた方との濃厚接触がある方、過去2週間以内に政府から入国制限・入国後の観察期間を必要とされる国や地域への訪問歴及び当該地在住の方との濃厚接触がある方は、ご来館をお控えください。

入館前に検温を実施いたします。37.5℃以上の発熱が認められた場合には、ご入館をお断りいたします。

混雑状況により入館制限を実施する場合がございます。入館中はマスクを着用し、咳エチケットにご留意ください。アルコール消毒や手洗いにご協力ください。

展示室内では会話を控え、展示ケースには触れないでください。他の方との距離を保つようにしてください。

なお、展示やイベント等につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じ実施内容に変更が生じる可能性があります。あらかじめご理解いただけますようお願いいたします。

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

■7月17日(日)

「平安貴族と装飾写経」

斎木 涼子(当館学芸部列品室長)

写経は、本来経典を学んだり、功德を積むために行うものでした。平安時代、貴族たちは趣向を凝らし飾り立てた写経を作り出します。その背景にある信仰と文化について、ご紹介します。

【受付期間】 6月27日(月) 10:00～7月16日(土) 17:00

■8月7日(日)

「仏教美術以前の日本美術」

井上 洋一(当館館長)

奈良博のコレクションは仏教美術だけではなく、世界の人々を魅了する縄文土器や土偶、そして謎多き銅鐸や銅矛たちもいるのです。今回は普段あまり出番のない彼らを主役に、縄文・弥生の美術にまつわる「通」なお話をしたいと思います。

【受付期間】 7月18日(月・祝) 10:00～8月6日(土) 17:00

■9月18日(日)

「明恵上人をめぐる仏教絵画」

谷口 耕生(当館学芸部教育室長)

鎌倉時代はじめに明恵上人によって創建された京都とがのお尾高山寺には、創建期にさかのぼる仏画の優品が数多く伝わりまします。その代表作である国宝ふつげんぶつ仏眼仏母像を中心に、造形に込められた明恵の仏教信仰を読み解きます。

【受付期間】 8月29日(月) 10:00～9月17日(土) 17:00

■10月16日(日)

「古代の戸籍と正倉院文書について」

野尻 忠(当館学芸部資料室長)

今から1300年以上前の飛鳥・奈良時代に作られた日本の戸籍について、その制度と実態をお話しします。現存する戸籍の多くは正倉院に伝来しましたので、今回は正倉院文書の全体像にも言及しつつ、戸籍を読んでみたいと思います。

【受付期間】 9月26日(月) 10:00～10月15日(土) 17:00

■11月20日(日)

「古写真と仏像研究」

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

たった1枚の古写真が、仏像の知られざる歴史の側面を明らかにすることがあります。仏像研究における古写真の有用性について、近年の調査成果をふまえてお話しします。

【受付期間】 10月31日(月) 10:00～11月19日(土) 17:00

■12月18日(日)

「如来像の着衣について」

岩井 共二(当館学芸部美術室長)

奈良国立博物館が今年制作した仏像のレプリカなどを用いて、飛鳥時代から鎌倉時代までの仏像が、どのような衣の着方をしているのかを分析し、仏像の衣文の美にせまります。

【受付期間】 11月28日(月) 10:00～12月17日(土) 17:00

【時間】 各回とも14:00～15:30 (13:30開場)

【会場】 当館講堂

【定員】 各回90名(事前申込先着順)

【申込方法】 当館ホームページより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※聴講には事前申込が必要です(当日申込でのご参加はできません)。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

❖ 公開講座 ❖

◆特別展「中将姫と當麻曼荼羅一祈りが紡ぐ物語」

■8月6日(土)

「貞享本當麻曼荼羅とその周辺」

北澤 菜月(当館学芸部主任研究員)

■8月20日(土)

「中将姫説話の展開」

日沖 敦子 氏(文教大学文学部日本語日本文学科准教授)

【時間】 13:30～15:00(13:00開場)

【会場】 当館講堂

【定員】 各回90名(事前申込制)。抽選による座席指定制です。
※申込受付は終了しました。

【参加証の送付】 当選者には、7月14日(木)までに参加証をお送りします。当日必ずご持参ください。参加証で展覧会場に入場することはできません。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

【お問い合わせ】 読売新聞大阪本社文化事業部

電話:06-6366-1848(平日10:00～17:00)

❖ 親子講座 ❖

◆わくわくびじゅつギャラリー「はっけん!ほとけさまのかたち」

本展をもっと楽しむための担当研究員による親子向けスライドトークです。

■8月21日(日)

「なぜなぜ?はっけん!ほとけさまのかたち」

翁 みほり(当館学芸部研究員)

【時間】 ①10:30～11:15(10:00開場)

②14:00～14:45(13:30開場)

【会場】 当館講堂

【対象】 小・中学生とその保護者

【定員】 30組(事前申込先着順)

【申込方法】 当館ホームページより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 7月25日(月) 10:00～8月20日(土) 17:00

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

※応募は1組につき1回でお願いいたします。

❖ インターネット ❖

奈良国立博物館では、ウェブサイトやTwitter、YouTubeでの情報発信をおこなっています。

「ならはく教育普及室」<<https://edu.narahaku.go.jp/>>のサイトでは、文殊の知恵から生まれた「ちえひろ丸」(知恵広まる)や「ざんまいず」たちが様々なイベントや読みものをご紹介します。



TwitterやYouTubeでは、最新の情報や季節の話題、ここでしか見られない貴重な動画などをご覧いただけます。ぜひ、フォロー、チャンネル登録をしてみてください。

Twitterアカウント
(@narahaku_PR)



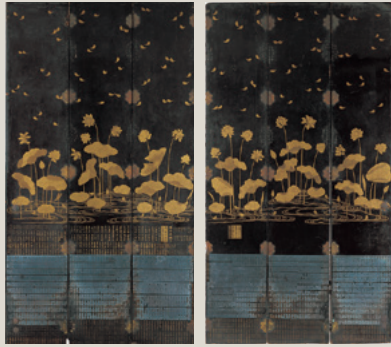
YouTubeチャンネル
(【公式】ならはく
チャンネル)



特別展「中将姫と當麻曼荼羅 一祈りが紡ぐ物語」

たい ま ま だ ら ず し と び ら
當麻曼荼羅厨子扉

国宝
6面
木製 黒漆塗 蒔絵
縦343.0cm
(各面)横63.0cm
鎌倉時代 仁治3年(1242)
奈良 當麻寺



たい ま だ ら し つ ら ま つ
當麻寺の本堂内に設えられた、當麻曼荼羅を祀る厨子の扉である。厨子は奈良時代末から平安時代初め頃の作で、もとは壁や扉のない吹き放しの構造であったが、鎌倉時代の修理の折に側壁と扉が新たに作り付けられた。その扉が本品で、現在、厨子から取り外して保管されている。

この扉の第一のみどころは、黒漆地に施された蒔絵装飾だろう。表面には宙を舞う蓮弁、裏面には優雅な蓮池の文様が表される。大きな扉ゆえの、なかなか大胆な意匠であるが、蓮の葉の表裏を異なる蒔絵粉で蒔き分けて質感の違いを表すなど、繊細な表現も使われる。金色の微妙な色調の変化を活かした蒔絵表現の奥深さを感じることができる。

裏面の下方にびっしりと表された結縁交名も重要である。これは鎌倉時代の修理に結縁した人々の名を記したもので、仁治3年(1242)という修理年と、蒔絵師などの工人の名も見える。結縁者は、鎌倉幕府の要人から無名の僧侶に及び、當麻曼荼羅への信仰がいかに広く行き渡っていたかがうかがい知れる。今ドラマでも注目されているあの人物の名も見つかるかもしれない。

三本 周作(当館学芸部研究員)

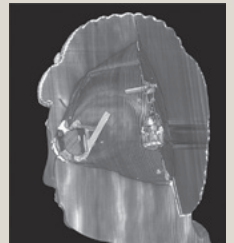
展示品の
みどころ

名品展「珠玉の仏たち」

しゃ か によらいりゅうぞう せいりょうじ しき
釈迦如来立像(清凉寺式)

重要文化財
1軀
木造 漆塗
像高77.9cm
鎌倉時代 文永10年(1273)
玄海作
当館

京都・清凉寺の本尊釈迦如来像の模倣。清凉寺像は寛和2年(986)に東大寺僧齋然が中国・宋より請来した像で、釈迦在世中の姿を写した霊像として信仰を集め、鎌倉時代に入ると盛んに模倣が造られた。本像は縄目状の頭髮や衣を通肩にまとう点など原像の形式を写すものの、明快な彫り口に同時代の特色がある。台座上框上面の墨書により、文永10年2月15日に開眼供養が行われたことがわかる。作者は玄海で、開眼導師は「良観上人」であった。玄海はほかに事績が知られないが、良観は西大寺観尊の高弟・忍性の房号(僧侶としての別名)であり、ここで指すのは忍性とみられる。



CT画像 頭部断面(3D)

頭部内に舍利容器を納めることが知られていたが、近年のX線CTスキャン調査により、容器は金属製の蓋と底部をとまう水晶製と考えられ、内部には舍利に擬えた粒状の品があることも確認された。観尊の自伝『感身学正記』文永8年条には、同年2月に西大寺中の仏舎利と法華寺で涌出した仏舎利二千粒を観尊が供養したところ増加し、最終的に五千粒を数えたが、うち一千粒が忍性に与えられたとある。この2年後に造立された本像との関連は、今後より注目されてよいだろう。

内藤 航(当館学芸部研究員)

開館日時(7月~9月)

開館時間 / 午前9時30分~午後5時

※真享本當麻曼荼羅修理完成記念特別展「中将姫と當麻曼荼羅一祈りが紡ぐ物語」(7月16日~8月28日)は午後6時まで(毎週土曜日は午後7時まで)
※わくわくびじゅつギャラリー「はっけん!!ほとけさまのかたち」(7月16日~8月28日)は同上
※名品展=毎週土曜日は午後8時まで(8月5日~8月15日は午後7時まで、ただし8月6日は午後8時、8月12日・8月13日は午後9時まで)

休館日 / 毎週月曜日、7月19日(火)、9月20日(火)

※7月18日(月・祝)、8月15日(月)は開館。
※8月8日(月)、9月19日(月・祝)は名品展(なら仏像館・青銅器館)のみ開館。

観覧料金 名品展・わくわくびじゅつギャラリー

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはマイライDをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※奈良国立博物館キャンパス(メンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。
※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

観覧料金

真享本當麻曼荼羅修理完成記念特別展
中将姫と當麻曼荼羅一祈りが紡ぐ物語

	一般	高校・大学生	小・中学生
当日券	1,600円	1,000円	500円
前売	1,400円	800円	300円

※前売券は当館観覧券売場、近鉄主要駅、ローソンチケット(Lコード:59666)、チケットぴあ(Pコード:686-112)、イーラスなど主要プレイガイド、セブンイレブン/他コンビニエンスストアで7月15日(金)まで販売します(チケット購入時に手数料がかかる場合があります)。
※障害者手帳またはマイライD(スマートフォン向け障害者手帳アプリ)をお持ちの方(介護者1名含む)、奈良博プレミアムカード会員の方(1回目及び2回目の観覧)は無料(要証明)。
※奈良国立博物館キャンパス(メンバーズ会員(学生)の方は当日券を400円、同(教職員)の方は1,500円でお求めいただけます(要証明)。
※観覧当日に証明書・会員証などの提示が必要です(一般と小学生以下を除く)。
※館内が混雑した場合は、入場を制限する場合があります。
※本展の観覧券で、同時開催の「わくわくびじゅつギャラリー」(東新館)、「名品展」(なら仏像館・青銅器館)もご覧いただけます。



〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車
※当館には駐車スペースがございませんので近隣の県営駐車場等(有料)をご利用ください。